

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
- (1) 本人又は両親・兄弟が他の薬物に対するアレルギー、蕁麻疹、気管支喘息、アレルギー性鼻炎又は食物アレルギー等の患者
 - (2) 血液の異常のある患者〔血液の異常を悪化させるおそれがある。〕
 - (3) 肝障害、腎障害のある患者〔症状を悪化させるおそれがある。〕

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用（頻度不明）

- 1) ショック：ショックがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、胸内苦悶、血圧低下、顔面蒼白、脈拍異常、呼吸困難等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 無顆粒球症：無顆粒球症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹・紅斑、小疱性角膜炎、痒疹等
血液 ^{注2)}	血小板減少、貧血等
肝臓 ^{注1)}	肝障害
腎臓 ^{注1)}	腎障害
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振等
眼	眼障害

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) 観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔類似化合物（スルピリン等）による動物実験で催奇形作用が報告されている。〕
- (2) 妊娠末期のラットに投与した実験で、弱い胎子の動脈管収縮が報告されている。

5. その他の注意

非ステロイド性消炎鎮痛剤を長期間投与されている女性において、一時的な不妊が認められたとの報告がある。

鎮痛剤

劇 日本薬局方
ミグレニン

ミグレニン「ケンエー」

Migrenin

500g

鎮痛剤

劇 日本薬局方
ミグレニン

ミグレニン「ケンエー」

Migrenin

500g

※※規制区分：劇薬
貯 法：気密容器
遮光して室温保存

製造番号

使用期限

紙 箱

袋：PE

健栄製薬株式会社
大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
電話番号 06(6231)5626

※※2015年10月改訂（第4版）
※ 2008年6月改訂

日本標準商品分類番号 871144

承認番号	薬価収載	販売開始	再評価結果
(60AM)4339		1985年10月	1976年7月

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤又はピラゾロン系化合物（スルピリン等）に対し、過敏症の既往歴のある患者

※【組成・性状】

※〈組成〉

1g中 日局ミグレニン 1g含有。
〔アンチピリン90、カフェイン9及びクエン酸1の質量の割合からなる。〕

〈性状〉

白色の粉末又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。
湿気及び光によって変化する。

【効能・効果】

頭痛

【用法・用量】

ミグレニンとして、通常成人1日1.0gを2～3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

長期連用は避けるべきである。

〈調剤包装単位用コード〉

(01)04987286805894

〈販売包装単位用コード〉

(01)14987286105892